

# 川根地区中高連携だより

川根地区連携型中高一貫教育協議会

## ■ 地域コミュニティとしての川根高校に期待

これまで度々、川根高校の良さは、生徒が素直・純粋・真面目であると言われていますが、私は、もう一つ、川根高校の素晴らしさは、「地域コミュニティ」として機能している点にもあると思っています。

先日も、本校の文化発表会（三ツ星祭文化の部）に出演してくれた郷土芸能部の生徒や、体育大会（スポーツの部）に参加してくれた生徒たちの礼儀正しく丁寧な受け答え、地域の方々とともに爽やかに活動する姿が、本校の職員の間で話題となりました。おそらく中学生の目にも、地域の行事に生き生きと取り組む川根高校の生徒の姿は「憧れの高校生」として映ったに違いありません。

そうした川根高校の生徒の姿を見ていると、川根高校が、まさに、地域に根付いた学校となり、そこで学ぶ生徒が自然のうちに地域との関わり方を身に付けていることが分かります。連携型中高一貫教育がスタートして、今年で15年が経過していますが、川根高校が目指している「川根を想い、川根の未来を創る人を育てる」学校となっていることは間違いありません。今、教育界で盛んに言われている「地域とともにある学校」そのものが川根高校なのです。

かつて、川根地区連携型中高一貫教育の組織の一つに、「郷土愛部会」という部会があり、高校生と中学生が共に河川美化や道路美化に取り組んでいました。それを受け継ぐ形で、現在は「川根の郷の夢を語る会」や「川根の郷夢講演会」が開催されています。形を変えながらではありますが、長年に渡っての「川根」を意識した地道な取組が、前述のように「地域コミュニティ」としての川根高校を形作っているのではないのでしょうか。年を経て姿を変える連携型中高一貫教育ではありますが、引き続き、川根高校が地域コミュニティとして大きな役割を果たしていくことを期待しています。

（副会長 中川根中学校 校長 鈴木 憲）

## ■ 平成 28 年度川根高校中学生一日体験入学 7 月 26 日（火）



連携中学校の3年生が川根高校の中学生一日体験入学に参加しました。学校紹介、模擬授業、部活動見学等を通じ、川根高校をより深く理解し、高校生活のイメージが持てたのではないのでしょうか。



## ■ 連携中学体育祭 9 月 10 日（土）本川根中・中川根中 9 月 17 日（土）川根中



私の中学校最後の体育祭はケガのために見学という形での参加だったので、当日は中学3年に戻ったつもりで参加しました。年々参加人数が減っていく中でも、大盛り上がりで、とても楽しかったです。特に全員リレーでは生徒、先生、地域の方々の参加により、やる人も見る人も感動ある体育祭になったと思います。（川根高校 3年 藪田紳一郎）



本川根中学校体育祭に参加した川根高校生

## ■ 授業参観（年間）

公開授業で社会と数学を中心に参観させていただきました。どちらの授業においても生徒が学習に集中して取り組んでいる様子が見られ、感心しました。特に教え子が在籍していることもあり、数学の授業には関心をもって参観しました。課題別に3つのクラスに分かれての授業でしたが、生徒にとって自分に合った課題だったため、どの生徒もあきらめることなく一生懸命課題に取り組んでいました。また、わからないところについて積極的に質問する姿が見られ、このような教員と生徒がふれあえる時間が多くとれることが川根高校の良さだと実感しました。（中川根中学校 教諭 松本剛幸）



## ■ 交流授業(年間)

中川根中学校には、週に一度、川根高校から富田先生(数学)、伊故海先生(英語)、増田先生(保体)、中村先生(国語)の4人が指導に来てくれます。数学の2次方程式が解けなくて困っていると、富田先生が自分のつまづきを一つ一つ丁寧に説明してくれました。そのおかげで解き方のコツがわかりました。英語の伊故海先生には、発音の仕方を教えてもらったり、国語の中村先生には、文章題のポイントを気づかせてもらったりするなど、疑問点が解決してとてもうれしかったです。また、保健体育の増田先生には、跳び箱やマット運動で細かな部分をアドバイスしてもらいました。週に一度ですが、これからも連携校での交流授業で積極的に質問し、力を伸ばしていきたいと思えます。



(中川根中学校 3年 鈴木泰郎)

池住先生は、いつも生徒に優しく声をかけて接してくれます。体育館でランニングをしているときにコースに出ているネットを束ねて生徒が走りやすいようにしてくれるなど、いつも自分たちのことを考えて指導をしてくださる先生です。また、柔道の授業では柔道着の正しい着方や帯の締め方などを教えていただきました。柔道着をしっかりと着ると、それだけで何か自分が強くなったような気がしました。池住先生に教えていただいた袷縋固めは自分の得意技になりました。

(川根中学校3年 天野達大 石切山大 松島翼 山本新)



本川根中学校には、週に何度か保健体育の山下先生と英語の田辺先生が来てくださっています。保健体育の山下先生は、的確なアドバイスが分かりやすかったです。跳び箱の水平開脚跳びでは綺麗に跳ぶコツを指導してもらい、そのおかげで綺麗に跳べるようになりました。英語の田辺先生は発音が良く簡単に英文が作れる、読めるコツを丁寧に教えてくださいました。分からないところも優しく指導してくださるより英語の授業が楽しくなりました。こうして高校の先生方から直接指導してもらえるのは、連携校の良さなのでこの貴重な時間を無駄にしないように積極的に指導してもらい、もっと自分を成長させていきたいと思えます。

(本川根中学校 3年 西村龍二)

## ■ 連携中学校文化発表会 10月22日(土)

今回の文化発表会では、初めて川根高校吹奏楽部の方に来ていただきました。文化発表会最初のプログラムで素晴らしい演奏をしてくれたおかげで、その後に続く生徒の発表にも気合が入ったと思えます。川根高校吹奏楽部のみなさんをはじめ、たくさんの方の支えがあったからこそ成功できた最高の文化発表会でした。

(本川根中学校 3年 神谷 亮汰)

私達川根高校郷土芸能部は川根中学校と中川根中学校の文化発表会で太鼓の演奏を行いました。中学生の前で演奏するのは一日体験入学以来でしたが、その時よりも素晴らしい演奏ができたのではないかと思います。中学校の先生方にもお褒めの言葉をいただいたのですごくうれしかったです。これをきっかけに郷土芸能部に入ってくれたらとてもうれしいです。

(川根高校 1年 坂下実奈美)

川根高校から郷土芸能部を招き、赤石太鼓を披露していただきました。2メートル以上はあろうかという特大太鼓を慣れた手つきで協力して搬入する姿にチームワークのとれたよい集団だと大変感心しました。実際の演奏は大変な迫力で、



長いバチをリズムカルに操り、12人の生徒が一糸乱れず演奏する様は圧巻でした。昨年度の川中卒業生も大きな振りで力一杯演奏しており、川高の仲間とともによい時間を過ごして成長しているのだなと嬉しくなりました。力強い演奏の中でも、一人一人が音の強弱やタイミングを合わせ、音を大切に繊細な音楽を創ろうとしていることがよくわかりました。郷土芸能部の、仲間を信頼して互いに心をつなぎ、音の重なりを大切に最高ハーモニーを生み出そうとする姿、川高生のさわやかさとひたむきさにふれて大変よい時間を過ごすことができました。

(川根中学校 教頭 佐藤一朗)



### 川根地区連携型中高一貫教育協議会

連携校(静岡県立川根高等学校、川根本町立本川根中学校、川根本町立中川根中学校、島田市立川根中学校)

事務局: 川根高校 TEL57-2221 E-mail: kawane-h@edu.pref.shizuoka.jp 御意見をお待ちしております。



# 川根地区中高連携だより

川根地区連携型中高一貫教育協議会

## ■ 会長あいさつ

日ごろから川根地区の中学校、高等学校の教育活動に対して深い御理解と温かな御支援、御協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、川根地区連携型中高一貫教育は平成 14 年度に、「生徒一人一人の個性を重んじ、生きる力を育む教育を目指すとともに将来の川根地区を担う有意な人材の育成」を理念として始まりました。その後多くの関係者により導入当初の想いが受け継がれ、「ティームティーチングによる交流授業」、「生徒交流」、「教職員研修」を三本柱として継続しています。昨年度の活動からは、生徒の川根に対する想いの醸成、教職員の生徒個々に応じた指導体制、円滑な中高接続等に大きな成果が見られました。本年度は更に教科別研修会、生徒交流の新たな形態の研究、「川根の郷『夢』講演会」の充実を図っていきます。

この川根地区には人口減少や少子高齢化等の課題はあるもの、世界が認めた豊かな自然、綿々と受け継がれている伝統文化、茶、椎茸、柚子等の地場産業等があります。この川根を誇りに思い、将来にわたって地区の課題と向き合いながらも良さを伸ばし魅力を発信していく人材の育成が中高連携校の大きな使命であると思います。本年度も今までの取組を更に深化させ、より良いものにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(川根高校 校長 松井 亮)

## ■ 28 年度の主な事業予定

4 月	交流授業開始、(随時)部活動交流実施 春季合同研修会(教職員の研修)
6 月	川根高校南麓祭への中学生の参加
7 月	中学生の川根高校 1 日体験入学
9 月	連携中学校体育祭への高校生の参加
10 月	連携中学校文化祭への高校生の参加
11 月	秋季合同研修会(教職員の研修)
2 月	川根の郷の夢を語る会(中高生の交流会)

今年度は、生徒・教員の交流の更なる充実を図り、連携型中高一貫事業の一層の進化及び深化をさせていただきます。

左表のほかにも、あいさつ運動や年 2 回の講演など、さまざまな活動を通じて生徒の交流を推進します。また、教員の授業力・教科指導力を高めるため、参観授業と研究協議の充実を図ります。

## ● 春季合同研修会 4 月 21 日(水)

中高合同研修会は、春と秋の年 2 回、連携 3 中学校と高校の教職員が一堂に会する研修です。今回の春季研修会では、中高の職員に加え、県・島田市・川根本町の教育委員会を招いて行われました。全体会では川根地区連携型中高一貫教育の説明の後、「連携中学校の学力における現状と課題」を中川根中学校が、「川根高校の学力における現状と課題」を川根高校が発表しました。また、分科会では、「魅力ある川根地区連携型中高一貫教育を目指して」をテーマに、「川根留学生による活性化の方策」「中高交流イベントの実現方策」「部活動の活性化方策」「学力向上方策」「自立心向上方策(生徒指導からのアプローチ)」「自立心向上方策(進路指導からのアプローチ)」「養護教諭間の情報交換」の 7 分科会に分かれ、活発な意見交換が行われました。





## ■ 交流授業（年間通して）

川根高校の教員が連携中学校へ、連携中学校の教員が高校へ出向き、TT（チームティーチング）の授業を行っています。本年度は本川根中学校で保健体育、英語、中川根中学校で国語、数学、保健体育、英語、川根中学校で保健体育、川根高校では数学、理科、英語の授業で実施しています。

本川根中学校の植田講師は、川根高校で英語の授業を行っています。「中学での学習がどう高校の授業へとつながるのか分かり、中学校での指導に役立つ。また、高校の授業に入ること、指導方法や指導内容等参考になった。」と交流授業の良さを語っています。

また、同じく本川根中学校で英語のTTを行っている川根高校の田辺教諭は「中学校での英語の様子、生徒の理解度がわかり、高校の授業でも生徒が苦勞するところなどが把握しやすく、指導に生かすことができる。また中学生も実際に高校で行っている活動をすることでモチベーションが上がる。」と話しています。



## ■ 南麓祭(文化の部) 6月4日(土) 校内発表の日



南麓祭では、多くの貴重な体験をすることができました。川根高校、川根中学校、中川根中学校の3校がそろうことで、本番はもちろん、練習の時から学ぶことがたくさんありました。川根高校の先輩方から楽器を吹く前のトレーニングや基礎練習の方法、上手なリズムの取り方など、今までよくわからなかったことを聞くことができました。

本番では、いつもの3倍以上の人数による合奏で、普段チャレンジできないような曲を演奏することができました。これは、とてもすてきな経験になりました。また、合同演奏だけでなく「宝島」などの中中だけのステージでも多くの観客が手拍子をしてくれたのがとてもうれしかったです。（中川根中学校音楽部 3年 渥美 李咲）



南麓祭では、川根高校、中川根中学校、川根中学校の3校で演奏させていただきました。ふだん、なかなか大人気で演奏することがないので、とても楽しかったです。また、他の学校の演奏を聴いて演奏の仕方など見習いたいことがたくさんありました。

単独演奏では、緊張しましたが、練習の成果をだして、思いきり楽しんで演奏することができました。

南麓祭では、合同演奏、単独演奏と色々な曲を演奏できて良かったです。このような機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。（川根中学校 3年 八木 彩花）

（川根中学校 3年 八木 彩花）

## ■ あいさつ運動 6月15日(水)



川根高校の評議委員、生活委員を中心に連携中学校にてあいさつ運動を行いました。川根地区の良さである「気持ちの良いあいさつ」を中高で共有できることを目的とし、高校生が出身中学校に伺いました。昨年までの先輩が川根高校の制服を着て昇降口に立っているため、中学生は照れながらも元気な声であいさつを返してくれました。

### 川根地区連携型中高一貫教育協議会

連携校(静岡県立川根高等学校、川根本町立本川根中学校、川根本町立中川根中学校、島田市立川根中学校)  
事務局：川根高校 TEL57-2221 E-mail:kawane-h@edu.pref.shizuoka.jp 御意見をお待ちしております。



# 川根地区中高連携だより

川根地区連携型中高一貫教育協議会

## ■ 「夢」につながる小さなきっかけを見逃すな

校長職ゆえに、生徒の前で話をする機会が多くあります。これまでの様々な式辞を振り返ってみると、「夢や希望を持つ」「具体的な目標を持つ」といった生徒を励ます話が多かったように思います。例に挙げたのは、イチローや五郎丸選手などのスポーツ選手、研究者やノーベル賞受賞者など、「はっきりとした夢」を持った人たちについてです。

「夢」つながりで言えば、1月の「夢」講演会では、日本サッカー協会審判委員長である小川佳実氏の話をお聞きすることができました。小川君は、高校の同級生です。昼食を共にしながら、彼が審判への道を進むきっかけとなった、川根高校での先輩教員との出会いの意義について話してくれました。その「小さなきっかけ」を大切にすることで、彼は、日本を代表するサッカーの審判の仕事に成し遂げるようになったのだと痛感しました。

「夢を語る」人たちの多くは、小川君のように、必ず「夢につながる小さなきっかけ」を持っています。それは「神様のいたずら」のように偶然によるもののようにも思いますが、そのことを見逃さない感性や感覚といったものを持っていることも事実です。

昨年度の川根中学校 PTA 広報誌『水あかり』の「卒業生の将来の夢」特集では、明確な夢を書いている生徒もいましたが、「まだはっきりとした夢はありませんが……」と前置きしている生徒も数多くいました。でも「自分の夢」につながる「小さなきっかけ」は、思いのほか、身の周りにたくさん存在しているのではないかと思います。

その「小さなきっかけ」を見逃さないためには、「まずは何事も経験してみよう」という、ちょっと欲張りなくらいの積極性が大切になると、改めて思います。やっぱり、私の話は、生徒を励ます話になってしまいます。

(川根中学校 校長 杉本容康)

## ■ 秋季中高合同研修会 11月21日(月)

4月の春季中高合同研修会に続き、秋季研修会が川根高校セミナーハウスで行われました。中高の職員に加え、県・島田市・川根本町の教育委員会に参加いただき、常葉大学大学院の久米昭洋先生による「学校教育に活かすコーチング」という演題での講演、川根中学校の学校教育活動の紹介、という内容で盛況に行われました。

例年発表されていた中高一貫教育全国大会の報告は、今年は大会が2月に実施された事情で、29年度に繰り下がります。



## ■ 川根の郷「夢」講演会



1月23日(月)川根の郷「夢」講演会がありました。講師の小川先生の講演を聴いて、一番印象に残ったことは、「飛行機は向かい風で飛ぶのだから」とおっしゃっていたことです。向かい風でも飛んでいく飛行機のように、困難があっても立ち向かっていきたいと思いました。

自分にとって、今、一番困難なことは部活動です。僕は、音楽部に所属していますが、テンポが速くて音符が多い曲を4曲、1月末に行われる定期演奏会までに覚えなければなりません。何回もお手本を聴いたり、練習したりして素晴らしい演奏ができるようにしていきたいです。(中川根中学校 1年 大橋優也)

小川先生の話がうかがい、言語の違う国の人とコミュニケーションをとることの難しさを改めて感じました。すべて英語で話を進めなければならぬという状況は、日本語だけで生活してきた私の場合は想像以上に大変なことだと思います。グローバル化する現代では、言葉だけでなく、考え方や文化を理解することも必要になってきます。将来、社会に出たときに自分の考えを周りの人たちに伝えられるよう、今から意識して生活しようと思いました。

私達高校2年生は、もう受験生です。目指す目標に向かって、何をすべきかを考え、実行していきたいです。立ち止まらず、一步を踏み出す勇気をもって物事に取り組もうと思います。

(川根高校 2年 山下由貴)



## ■ 川根の郷の夢を語る会

●日 時 平成 29 年 2 月 9 日 (木) 13:40～15:50

●会 場 川根高校 セミナーハウス

●参加者 本川根中 2 年生、中川根中 2 年生、  
川根中 2 年生、川根高校 1 年生・3 年生  
合計 147 人

高校 3 年生の方々の大学や職を決めるまでの勉強法などの話を聞いて良かったです。面接練習などで先生からの評価で A をとれるように工夫しているところはすごいと思いました。川根本町の人口増加のために「川根本町の良い点、直したい点」など 1 人 1 人意見を出し話し合いました。良い点では自然豊か、直したい点では電車の本数が少ない、だから「お店を作ればいい！」などと言う意見が出ていました。川高生の温かい雰囲気が大変良かったです。

(本川根中学校 2 年 益井 未央)



「川根の郷の夢を語る会」に参加していろいろなアイデアが出てきたと思いました。私のグループは“川根本町のいいところをどのように伸ばしていくか”というテーマでした。普段一緒に活動しない川高生・川中生と意見を出し合いました。中学生では出ないインスタグラムやユーチューブといった映像を使う意見が出たり、違う角度から見る人がいたりして様々なことを語り合うことができてよかったです。”川高生がいる“ことによってすごくスムーズに会が進んだのですすごいなと思いました。

(中川根中学校 2 年 細田 佳代子)



2 月 9 日に「川根の郷の夢を語る会」がありました。私たちのグループが考えたプロジェクトは、「都会にしようプロジェクト」です。農家で農業体験をしてもらい、若い人向けのお店を作るなどの意見がでました。高校生がいろいろな意見を出してくれて、話し合いが盛り上がりとても楽しかったです。また、高校生の進路の話を聞いて、これから自分の進路を決めていく上で、早めに考えて行動に移していきたいと思いました。

(川根中学校 2 年 A 組 西原星奈)

## ■ 小学校教員を対象とした研修会

2 月 9 日の「川根の郷の夢を語る会」と並行して、本校会場に川根地区の小学校教員対象で研修会が行われました。参加した先生方は、中学生と川根高校の生徒の活発な意見交換を見て、今担当している児童たちの数年後の姿をイメージできた様子で、2 人の川高 3 年生の話にも感動し、大変充実した研修だったと好評でした。

## ■ 未来へ続く道

大井川鐵道駿河徳山駅で降り、駅前の緩やかな上り坂を歩いていくと、重厚な校章が飾られた学舎にたどり着きます。春にはしだれ桜、夏には深緑、秋には紅葉と豊かな自然に囲まれた学舎から、川高生のいぶきが感じられます。テニスコートで大きな声を出しながらボールを追いかける女子高生、ナイター照明に浮かび上がったグラウンドで泥だらけになってノックを受ける野球部員、煌々と明かりが灯る教室で夜遅くまで勉学に励む受験生など、川高生は自分の夢や目標に向かってまっしぐらに突き進んでいます。

そんな川根高校の卒業生は、『純朴で礼儀正しく、人情味があふれている』『故郷を愛し、故郷を誇りに思っている』人ばかりで、地元のみならず全国各地で活躍しています。川根の地で生まれた豊かな心が周りの人たちに潤いを与え、貴重な存在となっているのです。

川根留学生の全国公募に向けた準備、ICT を活用した先進的な授業など川根高校は新たな時代をスタートしようとしています。連携中学校として新しい時代の川根高校にふさわしい生徒の育成を目指し、身が引き締まる思いでいっぱいです。

(本川根中学校 校長 渡邊 朗由)

## 川根地区連携型中高一貫教育協議会

連携校(静岡県立川根高等学校、島田市立川根中学校、川根本町立本川根中学校、川根本町立中川根中学校)  
事務局：川根高校 TEL57-2221 E-mail : kawane-h@edu. pref. shizuoka. jp ご意見お待ちしております。